

2.16.3. 教育活動概要

(a) 卒業論文概要

| | |
|-------|--|
| 久保 和輝 | <p>歯科医院における来院者維持のための予約管理システム</p> <p>近年、歯科医師過剰問題という問題が浮かび上がってきた。歯科医院の数が需要と供給のバランスが崩れるまでに増え、歯科医院あたりの収入が減少している。また、今日のマーケティング活動では新規顧客創造重視の活動から、既存顧客維持重視の活動へと変化しつつある。そこで本研究では予約システムを通して顧客の傾向などを把握し、リピーターを確保できないか考察していく。</p> |
| 及川 堯頼 | <p>料理の彩りの変化を用いた食卓の会話行動コントロールシステムの改良</p> <p>我々にとって食卓は、栄養摂取だけでなく、コミュニケーションをとる重要な場所である。本研究室では、食事の際の会話行動のモデル化に基づき食事と会話の行動の切り替えを自然に導くシステムの研究を行っている。このシステムは食卓上にプロジェクタを設置し、料理の彩りを動的に変化させ食事者の行動を導くシステムである。本研究では先行研究の問題点となる状態把握機能および不安定な筐体の改良を行うことを目的とする。</p> |
| 及川 良輔 | <p>口内領域を利用した携帯電話操作のためのポインティング操作インタフェースの開発</p> <p>現在、存在している携帯電話操作インタフェースの問題を解決する研究として、前研究では、読唇による母音認識を行い、携帯電話の操作コマンドと照合することで呼び出し操作を可能とした。しかし携帯電話の機能として呼び出し操作だけではまだ不十分である。そこで本研究では前研究の機能追加、改良として、口内領域を利用したポインティング操作（上下左右へのメニュー移動、決定・戻るなど）を提案、実装する。</p> |
| 佐藤 将大 | <p>試合動画を用いたアイスホッケーのシュート・パス陣形記録支援システム</p> <p>現代のスポーツは情報戦術が求められる傾向にある。しかし、アイスホッケーでは経験則に頼った指導がなされており、統計データから戦略立案がされていないのが現状である。日本を世界レベルに高めるためには、統計データを蓄積し、独自のスタイルで強化を行うための指導が必要である。本研究では、アイスホッケーのシュート・パス陣形記録支援システムを作成した。本システムでの記録の蓄積が、指導要領作成の根拠となると考える。</p> |
| 高橋 伸八 | <p>ユーザにスケジュール情報を気付かせるための空間を利用した情報提示システムに関する研究</p> <p>普段スケジュール管理のために、私たちは紙やスケジュール管理アプリケーションを用いるが、スケジュールに注意を払うことやスケジュールを見るための操作が必要になるという欠点がある。本研究室では、常にスケジュール情報を空間へ提示し、ユーザに向けて期日に応じて移動させることにより、情報の内容をすぐにユーザに気付かせるシステムの考案、実装を行ってきた。本研究ではディスプレイ駆動システムの可動部の拡張を行った。</p> |
| 野村 勇進 | <p>デジタルコンテンツ流通における価値の創造</p> <p>近年、タブレット型のコンピュータや、タッチパネル式のスマートフォンの登場により、電子書籍市場に大きな動きが見えてくるようになった。しかし、現状では本を電子化することのメリットを生かしきれてはいないのではない。本論文では電子化による編集の容易さやインターネットを通じて誰でも閲覧が可能という点に着目し、「書き込み可能な電子書籍システム」の提案、実装を行う。</p> |

| | |
|--------|---|
| 原田 啓史 | <p>共有ブロックを用いた実物体共有対称型遠隔地作業支援システムの改良</p> <p>共有ブロックとは、ユーザの組み立てをブロック自身が自動的に把握する機能、内蔵LEDにより遠隔地ユーザの組み立て方をもう一方のユーザに伝える機能を持つ知的ブロックであり、本システムはこれを用いることによりブロックの組み立て作業を遠隔地で容易かつ直感的に共有することが出来るシステムである。本研究ではこの先行研究における端子の脆弱性・制御権の管理といった問題点を挙げ、改善システムを実装し、評価を行う。</p> |
| 福士 樹 | <p>カップを用いたコミュニケーションの機会と話題提供システム</p> <p>近年、情報機器やネットワークの発達に伴い、個人デスクの個別化が進んでいる。これによって他者とのコミュニケーションは非対面コミュニケーションが主体となってきているが、共同作業を円滑に行うためには、日常における何気ない対面コミュニケーションが重要とされている。本研究では、このような環境での対面コミュニケーションを誘発し、会話のきっかけをあたえるシステムを提案する。</p> |
| 谷地 貴大 | <p>メールを用いたBGMにおける感情表現に関する研究</p> <p>現代社会において電子メールは必要不可欠な情報伝達手段である。電子メールが登場した当初は文字だけの文章作成であったが、昨今では伝わりづらかった感情を伝わりやすくするため絵文字の使用もよくみられる。本研究では、電子メールの絵文字に対応した音楽(BGM)を付けることによって、伝わりづらかった感情をより伝わりやすくすることを目的とする。</p> |
| 加賀谷 孝樹 | <p>調理工程の効率的なスケジューリング</p> <p>ファーストフード店などの増加により、料理店などの調理現場において効率的な調理が望まれている。注文された料理を順番に調理するよりも、各工程に分解して効率のよいスケジュールを組み立て調理することで、全体にかかる時間を減らすことができる。また、新たに発生した注文をスケジュールの進行具合に応じて組み込むことでも時間短縮を実現することができる。</p> |

(b) 博士(前期)論文概要

| | |
|------|---|
| 李 雪佳 | <p>食事バランスサポートシステムにおける利便性向上と食事内容の効率的な数値化に関する研究</p> <p>現在の日本人の3大死因は生活習慣病に分類されている。生活習慣病の大きな要因は食生活の多様化、外食の普及などによる食生活の乱れである。そのため、食生活の改善を支援する研究がたくさん登場している。本研究では、ユーザがいつでも、どこでもシステムを利用できる携帯食事内容記録システムを試作した。また、システムの利用実験で収集したデータを分析し、食事量を写真から自動で推定する写真解析プロトタイプを作成した。</p> |
|------|---|

(c) 博士(後期)論文概要

該当無し

(d) 講座所属学生が第一著者として査読ありの論文誌掲載論文一覧

該当無し

(e) 講座所属学生が各学会で登壇発表した実績一覧

該当無し

(f) 学生が単独で受けた受賞や表彰一覧

該当無し